

# ソロモン諸島で咲かせたソフトボールの「花」、普及の最前線

文・写真/井上 栄 (青年海外協力協会)

第6回

## ソロモン流にあふれた大会



いのうえ・さかえ/1980年12月11日生まれ。愛知県出身。小学校からソフトボールを始めて大学までプレー。卒業後は愛知県公立中学校に体育教諭として勤務。2007年に退職し、青年海外協力隊に参加してジンバブエ共和国(07年6月~08年3月)、ソロモン諸島(08年8月~09年12月及び10年4月~11年3月)に赴任。帰国後は、星屋名古屋中での勤務を経て、公社・青年海外協力協会に所属して駒ヶ根青年海外協力隊訓練所に勤務。

**選** 手たちとともに準備を進めてきた「OTUWANAゲーム」の日が近づいてきました。今回の大会では、一人でも多くの人に参加してほしいという思いから、事前エントリーはせず、当日エントリーにしました。運の悪いことに私自身はほかの島から前日に帰る予定が悪天候のためボートが出ず、大会当日の朝、ホニアラに戻ることになりました。

しかし、そこはソロモン。朝5時に出発予定のボートは、8時になっても出ません。ようやく9時に出発し、3時間のボート旅を経て港から直接グラウンドへ向かうというドタバタぶり。それでも何とか試合開始までには間に合いました。

最終的には、グループでグラウンドに訪れた人、個人で訪れた人も含め、4チームを作ることができました。組み合わせを決定し、いよいよ大会スタートです。そして、この大会には、審判資格をもつソロモン諸島野球・ソフトボール連盟のメンバ

ーが審判員として加わってくれらるようになりました。ユニフォームを着た審判員の登場で会場の雰囲気も引き締まり、試合開始です。そして、ここでも驚きがありました。選手は、ベンチ前でなくベース付近に集まります。集合がかわるとピッチャースサークル周辺で両チームが顔を合わせるとお互いに握手を交わし、そのまま手をつないで整列の位置まで歩いてくる。ソロモンスタイルでの始まりにこの大会で何が起るかワクワクが止まりません。

両チームの選手が整列し、攻守はソロモンの1ドルコインのトスによってその場で決めます。なぜ1ドルコインにこだわったかあるかは分かりませんが、1ドルコインがないときは、バットトスで決めます。審判がグリップを上にしてバットをトスし、一方のチームのキャプテンがバットをキャッチ。その後順番に手を重ねていき、グリップエンドを握ったチームが攻守を選ぶことができます。



攻守決定に使われる1ソロモンドルのコイン(写真右)。コインがその場になかった場合は、写真のようにバットトスで決められる。これは日本人にもなじみのある方法だろう



攻守決定のあとは、審判の合図とともに礼をする代わりに「Tipiphurati(ヒップ、ヒップ、フリー)」とエラー交換をし、後攻のチームがグラウンドへ駆け出していきました。グラウンドへ駆け出していき姿を見て、ソロモンでソフトボールを始め、約半年、こんなに多くの仲間がで、その人たちがソフトボールを楽しんでいるということが本場にうれしくなりました。

つたからです。しかし、ソロモンの女性はたくましい。男性が手加減することもなく、同じようにプレーしていました。技術というよりはパワーで勝負している彼ら、良くも悪くも大迫力でした。ウインドミルやスリリングショットで投げ出される彼らのボールの速さと重さに驚きつつも、それ以上にピッチャーまでもが裸足でプレーしていることに驚愕しました。

音は一緒、後々、もしかしたら2つの「ファウル」をもじった言葉なのかなとも思いました。試合は午後から始まり、日没まで4試合しなないといけないことから、1試合最大70分、5回までとしました。どの試合も試合の前半は、ピッチャー優位のロースコアの試合。しかし、後半になるとピッチャーが疲れてくるのか、打撃戦へ。そして、負けず嫌いの選手たちは、点を取られると目が血走っていました。ピッチャーの疲れとともに後半に増えたのがデットボールです。ボールに当たりにたくないのは当然のことですが、ソロモンでは「絶対に当たりにたくない」と私は思っていました。なぜかと言うと、ゴールドスプレーなどのないソロモンでは、デットボールに当たると、一塁ベースにたどり着いたあと、当たったボールで患部をグリグリするという習わしがあるからです。彼らにとっては、それが痛みを早

くとするまじないのようなものでも、彼らの文化は否定しないもの、自分はされたくない思いがいつぱいで、その後の試合でも自分にボールが当たったとしても痛くない。ふり、をいつもしていました(笑)。



試合前には両チームが写真のように円陣を組んで、相手へエールを送る。これは日本では試合後に行われる光景だ

ウインドミルだろうとスリングショットだろうと、ソロモンのピッチャーは裸足



**Information**

**現地活動の支援**

2年間現地で活動を行う上で各ボランティアはさまざまな困難に出会う。自らの行動力とアイデアで現状を打破できるものもあるが、物質的、金銭的な困難については、JICAが支援をするケースがある。

その一つが現地業務費である。配属先の資機材の不足により活動が効果的に行えない場合に、先方の自助努力を促しつつも、ボランティアの活動経費を支給する。また、現地業務費とは別に、広く日本の人々から物品を提供してもらう「世界の笑顔のプログラム」がある。今年度の秋募集が10月から予定され、毎回多くの国からソフトボール用具提供の要望がある。

HP/ <http://www.jica.go.jp/volunteer>

\*\*\*\*\*

**ソロモン諸島** Solomon Islands

首都: ホニアラ (ガダルカナル島)

人口: 約53万人

言語: 英語、ビン語

面積: 2万8,900km<sup>2</sup> (岩手県の約2倍)

大小約100の島々からなる英連邦の一国で、4000もの集落が点在している。地理的にオーストラリアとの関係が深く、日本ともいろいろな面で友好を結んでいる。国民の大半が農業・漁業に従事しているが、近年は天然資源の開発で注目を浴びる。

\*\*\*\*\*